

筋肉ニ注入ス。

而シテ本例ト右規定ニヨル注射量ヲ對照スルニ、其經過中ニ於テ多少ノ消長ハアルモ、中毒症狀ヲ呈セル時期迄ノ注射全量ハ一三對一六・五立方糎ニシテ、寧ニ三・五立方糎ノ少量ヲ示シ、創製者ノ收支計算ニ於テ過誤ナクンバ、本例ニ於テハ注射量過多ニシテ、收支ノ差蓄積セリトハ首肯スル能ハズ。

五、患者特異質。本劑ニ對スル特異質ニ二種アルコトハ前述ノ如シ。本例ハ狹義ノ特異質ニハ非ラザルコトハ明カナリ。創製者ノ言ヲ藉レバ所謂一時的、特異質ヲ以テ説明スレバ最モ容易ニ解釋ヲ下シ得。

五、結論

一、「イマミコール」ノ一新副作用トシテ、全身筋肉系統ニ劇痛ヲ來スコトアリ。注射後約三時間ニシテ始マリ、痛ハ筋層深キ部ニ最モ著明ナリ數時間ハ同一強度ヲ持續シ鎮痛藥ヲ投與スルコトナクシテ漸次輕快シ、約十時間ニシテ全ク止ム。

疼痛ノ本性ハ不明ナリ。此際發熱、皮疹、眼險腫ヲ伴ヒ、蛋白尿ナシ。

二、本例ニ述ベタル副作用ヲ患者ノ所謂一時的、特異質ヲ以テ説明セントス。サリ乍ラ、此一時的特異質ナル語ハ穩當ナルモノナリヤ、他ニ重要ナル事實ノ伏在セルニ非ラズヤ。姑ク記シテ先輩諸彦ノ示教ヲ乞ハントス。

三、「イマミコール」ノ注射ニ際シテ筋肉内注射ニハ殆ト毎常局所疼痛ヲ訴フ。寧ロ靜脈内注射ヲ専用スルニ如カズ。

●正誤

前號(大正七年八月三十一日發行)中田理吉君「息肉様増殖チナセル子宮體部痛ノ一例ニ就テ」中
七七二頁、四行、筋腫狀體部痛ヲ茸腫狀體部痛(Torpidus Carcinoma)ト正誤ス。
前號(大正七年八月三十一日發行)橫川定君「肺「サストマ」ノ研究拾遺」中左ノ通正誤ス。

七七八頁
五、行

吸收
即チ開始後

吸收
即チ試驗開始後

(完)